

食品の安全・安心ミニシンポジウム（食品の放射能汚染）

意見交換の概要

5月26日 東濃会場

- ・事故当初、アメリカで放射性物質が検出されたのに日本で検出されなかったのはなぜなのか。
- ・野菜は洗わないで放射能を測るのが本当なのに洗って測っているのはなぜなのか。
- ・ストロンチウムは骨に蓄積する。
- ・プルトニウムはどこに行ったのか。
- ・保健環境研究所のモニタリングポストの高さは。（※12メートルです。）
- ・大気の何を測っているのか。（※現在のところ、ヨウ素、セシウムのみです。）
- ・花崗岩のせいで岐阜県の放射線量が高いという説明は正しいか。
- ・高い放射線量が出たら保育所などに通達が来る仕組みはあるのか。
 - 現在のところはありません。マスメディアを通じてお伝えしていくことになると思います。
- ・説明内容以外でやるとよいことはあるか。
 - 現時点では情報収集が大切だと思います。
- ・今後も国の情報を伝えてほしい。
- ・核融合科学研究所が6つモニタリングポストを持っている。
- ・イギリス気象庁が広がり予想を出している。

5月30日 岐阜会場

- ・マグロを洗っても100%除去はできない。
 - 申し訳ありませんが、手元にはデータとしてお示ししたものの以上の情報はありません。参考としてみてほしい。
- ・モニタリングポストの高さは？
 - 12メートル。保健環境研究所の屋上で定点観測している。各県で高さがまちまちだということは新聞報道で承知しています。今後統一がされるのかもしれませんが、事故前のデータとの比較はできると思います。
- ・給食の地産地消を進めてほしい。
 - 事故前から給食の地産地消に取り組んでおり、今後とも推進していきます。
- ・野菜の検査はしているようだが、納豆とか酒は大丈夫か。
 - 加工品も今後問題になってくるかもしれない。県としても計画的に検査していきたい。
 - 基準をクリアした野菜を閉鎖系の工場で加工した場合、汚染の可能性は少ないと思います。
- ・食品加工の会社ですが、業務用と生食用は異なるのではないか。中小企業は自主検査も難しい。最初だけでなく、途中でも調べる必要があるか。
 - 自主検査が望ましい。閉鎖系であれば汚染の可能性は低い。
- ・違反があった場合、どうなるか。
 - 回収が必要になる。

5月31日 中濃会場

- ・土壌汚染で根菜類はどうなるか。
→農林水産省が最近、吸収率を公表しました。さつまいもなどは吸収率が高いようです。

6月1日 西濃会場

- ・体内汚染のマグロも洗うと放射性物質が落ちるといふ実験結果を示したといふことは、魚肉も洗えといふことか。
→水洗の条件は不明ですので、参考としてみていただきたい。
- ・3つの半減期の違いが分かりません。
→物理学的半減期は自然に半分になるまでの期間、生物学的半減期は体外に半分排出されるまでの期間、実効半減期はその2つを考慮し内部被ばくが半分になるまでの期間を意味します。
- ・県によるサーベイメータでの測定はいつからどのように行われるのか。
→県産品のハウレンソウやトマトなどの定期的検査と、他県産の食品についてターゲットを決めて行っていく検査の2つを予定している。8月末に機器が導入される予定なので9月以降を予定している。
- ・ベクレル、シーベルトなど聞きなれない言葉が多く、不安。国民をだますためにむつかしくしているのではないかと思ってしまう。
- ・ベクレル、シーベルトなどわけがわからない。食品偽装、ユッケによる食中毒事件など、いかげんな業者がいては困る。食品衛生法3条は努力義務ということだが、義務にすべきだ。この場で要望する。
- ・正直な説明でよかった。「いろいろな物を買う」ということがリスク低減に役に立つことがわかってよかった。
- ・出席者の多さにびっくりした。前半の食品表示ウォッチャーの研修会の出席率の低さはどうなのか。
→130名の方にボランティアで食品表示ウォッチャーになっていただいております。県内5箇所です説明会を行っています。ご都合が合わない場合もありますのでご理解いただきたいと思います。
- ・東北の農産物の受け入れについて県の方針は。東北の農産物も汚染されていないなら食べるべきだ。
→申し訳ありませんが、回答できる立場にありません。

6月3日 飛騨会場

(意見なし)